

2. 山口豪雨災害の概要

(1) 災害を引起した豪雨の概要

今回の豪雨の発生は、中国地方に停滞する梅雨前線に向かって湿った空気が流れこみ、前線の活動が活発になったためと考えられる。山口県内には気象庁、山口県、国土交通省の雨量観測点がおおよそ160箇所設置されている。7月20日および21日の2日間累計雨量については、山口（気象庁）では294mm、防府（気象庁）では331.5mmであった。また、山口（気象庁）では最大時間雨量74.5mm、防府（気象庁）では最大時間雨量63.5mmを記録した。土石流が発生した時刻は、国道262号の下右田においては21日11:40頃、真尾のライフケア高砂においては21日12:30頃と推定される。下右田に近い観測点の防府（国土交通省）では、10分間雨量として8:00前後に18mm、11:40頃に12~13mmを記録している。一方、ライフケア高砂に近い真尾（国土交通省）では、10分間雨量として、8:00前後に18mm、12:00前後に16mmを記録している。また、時間雨量と累積雨量の時間変化に注目すると、防府、真尾ともに、雨が降り始める21日6:00前後まで約15時間降雨がなかった。すなわち、21日朝方から、土石流が発生する昼頃までに、21日0:00から災害発生時までの累積雨量として、山口（気象庁）で268.5mm、防府（気象庁）で228.5mmを記録し、いずれの観測点でも、その間に10分間雨量で10mmを超える雨の降り方のピークが7~9回あった。今回の豪雨は、短期間に集中的に降ったものであるといえる。

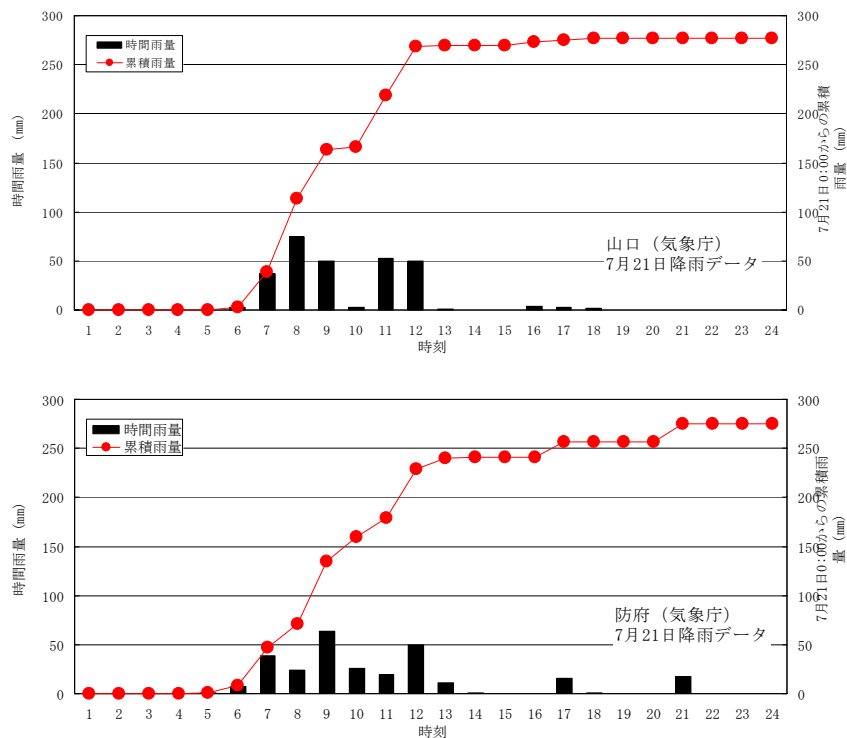


図-1.1 7月21日午前0時からの時間雨量および累積雨量の時間変化（データ：気象庁）

(2) 土砂災害の概要

今回の災害では、山腹崩壊や土石流被害が多く発生した。被災地は国道 262 号沿いの西の勝坂付近から東の奈美付近(主に防府市)まで東西南北約 7km 程の範囲に集中している。防府市での被害が大きく、報道もそちらに集まったが、その北側に隣接する山口市側でも山腹崩壊や土石流被害が多数発生しており、道路の通行止めや民家への被害が出ている(写真-2.2.1)。

新聞報道などによると、山口県内の死亡者は「ライフケア高砂」の 7 名を含む 17 名で、14 名が防府市での被災者である。また、家屋被害は全壊 30 棟、半壊 48 棟、床上浸水 651 棟、床下浸水 3368 棟である。このうち防府市では全壊 22 棟、半壊 40 棟、床上浸水 53 棟、床下浸水 526 棟と、被害の集中が分かる。なお、山口市でも市内中央を流れる榎野川(ふしのがわ)沿いに多くの浸水が発生し、川沿いの浄水場が水没したため、市内の半分近くに当たる約 3 万 5 千戸が断水した。これにより約 10 万人に影響が出たが、断水の復旧には 1 週間程かかっている。また、4 万戸以上で停電になった。

道路では県道を中心に 52 箇所で行き止まり規制がかかり、約 40 箇所では全面通行止めになった。中国自動車道の山口ジャンクションと徳地ジャンクション間も一時通行止めとなった。また、JR 山陽本線や山口線なども一部区域で運転を見合わせている。

山腹崩壊や土石流被害はまだ正確な状況が発表されていないが、100 程の溪流を対象に緊急点検が実施され、そのうち 49 箇所で行き止まりの恐れがあるとされている。これに対しては土石流センサーや雨量計の設置準備が進められている状況である。